

令和2年度 学校自己評価表 ( 計画段階 ・ 実施段階 )

福岡県立 春日 高等学校長 印

53

学校運営計画 ( 4 月 )		評価(3月)		
学校教育目標	新しい時代を担う人間として、徳育・知育・体育の調和を図り、豊かな人格を涵養するとともに、自ら学び、個性を伸ばし、心身ともにたくましく、社会の発展に寄与する骨太な人間を育成する。			
昨年度の成果と課題	<p>年度重点目標</p> <p>※新型コロナウイルス感染防止対応とこの対応下における教育活動のあり方について全職員でその工夫に知恵を絞る。</p> <p>(1)生徒が自ら学ぶ意欲を高め、深い学力を身につけるための質の高い授業の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の余白を埋め尽くさない学習指導の在り方</li> <li>・授業において「生徒を静かな観客」にしないための工夫改善</li> <li>・ICTを利用した「主体的・対話的で深い学び」の実現</li> </ul> <p>(2)高みに挑戦する気概を持つ志高い人間の育成</p> <p>(3)他の痛みがわかり、他を思い遣る心を持つ人間の育成</p> <p>(4)学力を深いところで支える読書活動の推進</p> <p>(5)主権者として自立した人間となるためのキャリア教育の推進</p> <p>(6)美化意識の高揚による学習環境の整備</p>	<p>具体的目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭・地域・同窓会との連携による信頼される学校づくり                     <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)ホームページ等による広報活動と情報収集と発信の充実</li> <li>(2)PTA・同窓会・地域との連携強化による信頼関係の構築と創立50周年に向けた目に見える取り組み</li> <li>(3)さらなる小中高連携の強化による成果の的確な発信</li> </ul> </li> <li>●教職員の資質向上                     <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)同僚性・OJTによる教職員の個の力及びチーム力の向上</li> <li>(2)授業研究・教科会の充実・難関大学入試問題研究等による授業力の向上</li> <li>(3)学力の問い直しによる課題・課外・土曜活用・模試等のあり方の研究</li> <li>(4)行事の精選と会議や業務縮減による「本業率」の向上</li> <li>(5)教師としてのプライドを自覚したコンプライアンス意識の保持</li> </ul> </li> </ul>		
評価項目	年度重点目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務課	教育環境を整備し、学習支援体制を強化する。	生徒の希望進路や学習状況に応じた教育課程・教務規定・教務内規を検討する。 時間割の作成、変更、運用を丁寧に行う。また、新型コロナウイルス感染症による休校に臨機応変に対応する。 時間割や成績処理システムのスムーズな運用、オンライン授業の推進について情報管理課との協力体制を構築する。 「主体的・対話的で深い学び」を支援できる教育環境の整備を進める。		
	生徒の学力向上における指導の充実を図るとともに、生徒のチャレンジ精神を育成する。	「心視の時間」を軸に、キャリア教育課や各学年との連携を図り、生徒の進路意識を高める。 成績通知や成績上位者の掲示をとおして、生徒の自信や向上心を刺激し、自主的学習態度を育成する。 委員会活動を活用し、生徒の自主的な学び、積極的な行動力、広い視野の獲得を支援する。 生徒に活動の場を提供することで、自尊感情や自主性の向上を目指す。		
	生徒の生活習慣や実態を把握し、学習習慣の定着を図る。	教員に生徒の出欠状況を提示することで、体調管理や時間厳守の指導を徹底する。 部活動生徒の成績など情報の共有化を図り、文武両道の実践を支援する。 生活時間調査を年2回実施し、生徒個人が学習習慣の改善に繋がられるように支援する。		
教務部	生徒が主体的に活動できる式典や諸行事の企画・運営を行う。	式典をとおして、生徒が自ら場にふさわしい服装や行動をとることができるよう指導する。 防災避難訓練を予告なしで行い、地震・火災等の災害に備え、自分や他者の命を守る行動のあり方について考えさせる。		
	積極的な広報活動に努め、本校の魅力を中学校や地域に発信する。	ホームページをこまめに更新し、的確な情報発信を行う。 中学生の体験入学について、昨年度の実施方法を基盤として改善を加える。 中学生や中学校PTAの学校訪問について、教務課と連携して、本校の魅力が十分に伝わるような受け入れを工夫する。 本校の魅力がよりよく伝わる学校案内パンフレット、ポスターを作成する。		
	PTAや同窓会との連携を図り、生徒の充実した学校生活に資する。	PTA主催行事(総会・講演会・研修会・ぜんざい会等)に全職員で協力し、保護者の積極的な参加を促す。 同窓会との連携を深め、教育環境の充実を図るとともに、同窓会の活性化に寄与する。		
情報管理課	各業務に関連するICTについて環境整備を図る。	業務効率向上に繋がるソフト・ハードを整備し、職員の負担軽減を図る。 メール配信とホームページ更新を一層活性化させ、校内での情報共有と校外への広報活動に資する。 統合型校務支援システムの円滑な導入に向けて遺漏のないよう準備を進める。		
	教職員のICT技術向上を図る。	ワード、エクセル等の主だったソフトウェアの使い方について、職員の要望に応じて助言を行う。 授業で使えるICT教材について、サーバーなどを通じての共有化を図る。		
	視聴覚教材の管理を徹底する。	無線LAN及び電子黒板機能付きプロジェクタの導入に向けて迅速かつ丁寧に職員へ情報を提供する。 使い方の難しい機材については、使用法マニュアルを随時改善する。		

生徒	生徒指導課	「春日高校五常」(克己の心、素直な心、感謝の心、思いやりの心、公共心)をとおして、豊かな人間性を育成する。	教師の率先垂範により、「笑顔、挨拶、時間厳守」など凡事徹底を図る。それにより生徒に自主的な姿勢及び態度を身につけさせ規範意識を育ませる。				
		部活動や学校行事の活動を活性化し、帰属意識やリーダーシップ・フォロワーシップを育成する。	学校行事やホームルーム活動の充実・活性化を図る中で、その目的や意義を理解させ、企画・運営に取り組ませることで、チームワークやコミュニケーション能力を育ませる。				
		安全・安心なホームグラウンドである学校を確立するための指導の継続と強化を図る。	生徒会執行部と各専門委員会、各部活動、各クラスを機能的に連動させることで、生徒会活動の活性化を図る。積極的に活動内容の広報を中学校や地域に行うことで帰属意識を高める。				
			学校行事等の企画・運営を積極的に生徒に行わせ、計画力・実行力・調整力と協調性を養い、その中で、自ら創造する喜びを体験させる。また、新型コロナウイルス感染症対策による休校に対応させる。				
生徒部	保健課		部活動の充実・活性化を図り、加入率85%以上を目指すとともに、高みにチャレンジする精神を涵養し、心の指導を充実させることで本校発展の核となる春日生を育成する。				
			「学校生活アンケート」等をオンラインで実施する。教員同士の情報共有、生徒との傾聴型の面談や保健課との緊密な連携をとおして、いじめ撲滅や生徒のつまずき、休校への不安など早期対応に努める。				
			交通安全教育の工夫と徹底を図り、自転車通学生のマナーを向上させるとともに、非行防止・防犯教育・自己防衛教育を諸機関と連携して計画的に実施し、自他の安全確保と自己防衛力を高める。(生徒指導HR・学年集会等の有効活用)				
生徒部	保健課	保健指導を適切に行い、健康問題への理解と関心を高め、自ら積極的に解決していく自主・実践的な態度を育成する。	職員全体で新型コロナウイルス等感染症予防・対策への指導を行い、生徒が安全・安心な学校生活を送ることができるようにする。健康診断・健康観察等をとおして、生徒自らが心身の健康管理に注意し、健康的な生活習慣・態度を養うことができるように指導する。				
			学校行事・ホームルーム活動・生徒会活動・部活動において、健康管理等の保健指導や安全指導を保健委員会等の生徒が主体となって情報発信をし、適宜指導する。				
			保健室・学年会・生徒サポート委員会を通して、特別支援教育コーディネーターを中心にスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・訪問相談員等の外部機関との連携を高め、カウンセリングの活用を中心とした支援体制の充実を図り、心の健康維持・増進に努める。				
		掃除に対する啓蒙活動を充実させることにより、美化意識の高揚とエコ活動の推進を図り、環境美化に取り組む。	整美委員会の更なる活性化を進め、毎日の清掃活動の充実を図り、全校生徒の環境衛生・美化意識の高揚を目指す。				
		安全点検(A区分・B区分)を定期的に行い、安全で快適な学習環境を作る。					
		グリーンスタッフ活動(花運動・古紙回収)の充実を図ると共に、ゴミの減量化を目指し、環境に優しい学校づくりを目指す。					

進路部	進路指導課	情報の共有化、データ処理の簡素化・マニュアル化を推進し、進路情報の有効活用を広める。	進路関係の文書・データの共有化および一元化			
			データ処理の簡素化による迅速且つ正確な成績処理、進路資料の作成			
			情報処理の課内研修会実施、および情報共有			
		必要に応じた進路資料の提供や、進路検討会、模試分析会等の企画・立案をし、全職員の進路指導力の向上を図る。	進路執務室の体制作りと情報共有			
			全職員への模試・学力テスト等の分析に必要な資料の効果的・適切な情報提供			
			進路のしおり「春風」の内容充実・有効活用			
		Classi の活用と情報共有				
	キャリア教育課	進路関係の行事や課外・模試の充実を図り、生徒の進学意識を高め、学力の向上を図るとともに、自主的に学習する態度を養う。	学年ごとの進路説明会(コース説明会での実施を含む)の内容充実			
			生徒の自主的な学習を促す課外・土曜活用講座の内容充実			
			正課授業と課外・土曜活用講座の連携、および科目等検討			
			進路資料室の環境・資料充実、生徒の有効活用			
		総合的な探究の時間や行事を通して、進路決定に必要な知識や能力を習得し、適正な勤労観、職業観を育成する。特に、3年間を通じた総合的な探究の時間の充実に向けた体制整備を図る。	1年生では、「探究基礎」「大学探究」「地域探究」「ESD・SDGs探究」を通して、探究の基礎知識(プロセス)を学び、探究の基礎・基本を固める。また、大学・社会と学問のつながりを意識させ、自分の進路について考えさせるとともに、聞く力、話す力、書く力を身につけさせ、豊かな人間性を持った生徒を育成する。			
		2年生では、「課題探究」を通して、身の周り・地域から地球規模の社会問題への関心を高め、調べる力、考える力を養い、大学・社会と学問のつながりを意識させ、自己の進路について考えさせる。また、ポスターセッションやプレゼンテーション等を通して、主体的に探究し発表する力や場に応じた適切なコミュニケーション能力を育成する。				
	3年生では、「課題探究」「自己探究」を通して、進路決定について進路指導課と協力し、生徒の適正な勤労観を育成する。また、生徒が自己実現のための目標を最後まで諦めず、高い志をもち、心身ともにたくましい生徒を育成する。					
	外部組織(春日市や小学校・中学校・大学や九州工学教育協会)との連携による活動を通し、生徒の進路意識を高めるとともに、自己の在り方、生き方や考え方を育む。	外部での体験活動等に積極的に参加させることで、興味深い学問の世界や様々なものの見方、考え方に触れ、自己の在り方を深く考えさせ、進路意識の向上を図る。				
	学年にふさわしい講演会や講座を企画運営し、社会に対する意識や自己探究への意識の向上を図る。					
	オープンキャンパスの日程の通知など組織的に運営し、目標とする進学先への関心を深め、進路意識の向上を図る。					
	各部・各学年・教科との連携を強化する。また、同窓会や様々な企業との連携も強化する。	各学年のキャリア計画が効果的な活動になるよう、各活動で反省記録を残し、生徒にとってよりよいものとなるようにする。また、参加した生徒が他の生徒に還元する場を設ける。				
		教科や分掌との連携を深め、生徒の活動が円滑に行われるよう支援する。また、上級大学への進学意識の高揚のために、関東圏ハイレベル研修の内容を充実させる。				
		同窓会や九工教と連携を深め、社会人講演会を通して、職業と学問のつながりや仕事のやりがいなど、今まで以上に生徒に興味・関心を持たせられるように講座数を増やしたり、内容を充実させたりする。				
	春日学術研究会(K.I.A.)の年間活動を通して、自己のキャリアアップに繋がる活動を計画的に行い、学びの動機付けを行う。	英語(A.E.)コースと理数(N.S.E.)コースに分けて、生徒の希望に沿ったきめ細やかな指導を行い、資格や検定を取得させる。				
		外部キャリア形成事業に積極的に参加させ、その結果を学内生徒に還元させる。				

研 修 部	研修課	生徒の能動的学習につながる授業改善を積極的に実践できるように働きかける。	校外研修や相互授業参観を推奨し、教科指導力向上に寄与する。			
			classiを活用して授業アンケートを実施し、個々の授業の分析・改善できる機会を増やす。			
			指導力向上につながる研修を企画し、授業改善による学校活性化を全職員が認識できるようにする。			
		若年教員のための研修を充実させる。	新規採用教員を含む若年教員や教育実習生の指導の充実を図ることで、学校活性化に寄与する。			
			キャリアアップ講座などへの積極的な参加を進める。			
		多様な生徒に対応するための新しい知識と指導力の向上につながる研修を行う。	専門家を招いた研修を行うことで新しい知識や、指導スキルの向上を図る機会を設ける。			
			classiや動画配信などインターネットを活用した学習支援に対応できる研修を行う。			
	図書課	学年に応じた読書を推進する。	オリエンテーションや読書、マナーに関する啓発活動を行い、図書館利用を促す。			
			選書委員会を活用し、教科の推薦図書や生徒の希望図書を把握し、適切で有用な選書を行う。			
多読賞や読書感想文コンクール等を通して、読書活動を活性化し、豊かな感性を育む。						
図書館行事の充実。		図書館行事や利用者への図書館サービス活動を通して、図書委員会によりよい図書館運営について考え、実践させていく。				
		読書会や読書週間行事等、図書館行事に一般生徒の参加を促し、読書に対する意欲を喚起する。				
レファレンス機能を果たす。		教科・学年・分掌との連携を図り、探究的学習の場としての図書館利用を推進する。				
	進学・就職などの進路実現や人格的成長に関わる資料を充実させ、来館者の支援に努める。					
	学校図書管理システム(e-slip)やClassi等による図書館だよりなどの広報活動を通して、蔵書の周知、活用を図る。					

1年生	「春日高校五常」の実践による心豊かでたくましい生徒の育成	気持ちのよい挨拶や時間を大切に行動を身につけさせ、丁寧な掃除を徹底する。 校外・校内のルールやマナーを遵守し、思いやりのある行動ができるようにさせる。 部活動や体育的行事等を通して健康増進・体力向上を図り、部活動等では加入率85%以上を目指す。			
	「授業心得五行」の実践による好奇心を持って学習する態度の育成(動画配信等の活用)	予習・授業・復習のサイクルを身につけさせ、継続して自学する態度を養う。 朝課外・土曜活用・模擬試験等を活用させ、学習課題を自ら克服する姿勢を身につけさせる。 生徒の状況に応じた適切な質と量の授業や動画配信・課題等を検討する。			
	様々な変化に対応できる柔軟な思考と行動力の育成	学校行事や生徒会活動等への積極的な参加を促し、インターネット等も活用しながら広い視野と行動力を育む。 キャリア教育を通して高い目標を設定させ、自己の適性について考えを深めさせる。 生徒の進路実現・自己実現のために教員間の情報共有と連携を強化し、個人面談や個別指導に活かす。			
2年生	「春日高校五常」の実践による人間性の育成	出席率99%以上と皆勤率55%を目指すと共に、克己の心を育む。 挨拶、時間厳守、礼法を身につけると共に、素直な心・思いやりの心を育む。 清掃活動の徹底により、環境整備と美化意識の向上を図ると共に、感謝の心・公共心を育む。			
	生徒が自ら学ぶ意欲を高め、自主的・主体的に学習する生徒の育成	classi(クラッシー)等を活用し、予習・授業・復習サイクルの徹底により家庭学習の充実を図る。 個々の目標を設定・実行・到達度評価する等、計画性をもって実践できる力を育成する。 動画配信やZOOM等のネット環境を利用し、生徒の自主的活動の一助とする。 キャリア教育をとおして高い目標を設定させ、努力を継続する意義を理解させる。			
	リーダーシップとフォロワーシップの育成	学校行事、生徒会活動(部活動)、HR活動や奉仕活動などを積極的に取り組ませ、互いに認め合い、高めあう人間関係を築かせる。 生徒会(学年生徒会)と部活動代表、クラス(有志)の3代表を組織し、行事等における生徒主体の運営を進め、自律心と実行力を伸長する。 修学旅行や生徒会活動をとおして、リーダーシップ・フォロワーシップを発揮し、学年の横の繋がりを強化する。			
	進路実現に向けた計画性と生徒への働きかけの実施(動画配信等を活用する)	進路目標を明確に定め、進路実現を目指して授業や定期試験、資格取得など学習に対して、向上心をもって計画的に取り組む態度を養う。 模試分析を丁寧に行い、上位層・下位層の生徒共に手厚い指導を行う。 郊外での研修会およびボランティア活動への参加を奨励し、多様な価値観に接する機会を生かし高い志をもたせる。			
3年生	自立した人間の育成	充実した学校生活を送らせ、皆勤生徒を増やす。 挨拶、時間厳守、礼法を身につけさせ、良好な人間関係を築かせる。 清掃活動を充実させ、環境整備と美化意識の向上を図る。			
	第1志望での進路実現	第1志望届を利用し、個に応じた教科指導、進路指導を行う。 進路情報の共有を図り、多様な入試制度に対応できる体制をつくる。 第1志望にもとづいた進路実績を達成する。(難関第30名を含む、国公立大200名以上)			
	主体的な学びと学力の伸長	積極的な授業改善と指導方法の工夫に取り組む。 探究的な活動を取り入れ、思考力・表現力の育成する。 面談やClassi等を利用した個に応じた学習支援を行う。			
	目標を達成しようと挑戦する態度の育成	第1希望をあきらめさせない指導、大学入試後期試験に対する指導を強化する。 部活動の取り組みを支援し、全国大会・九州大会を目指させる。 春日祭・大運動会を通し、困難や課題を乗り越える姿勢を養成する。			

	生徒の状況	<p>本校の生徒は、概して誠実で真摯な姿勢を有するが、その一方で、受動的かつ消極的な一面も往々にして垣間見られ、思っていることをはっきりと発言したり行動に移したりできないこともある。</p> <p>スマートフォン等を使ったSNS等によるいじめの陰湿化は、適宜ネットパトロール等を実施しているものの、完全な状況把握には至らず、そのため、日頃からの生徒観察や家庭との連携は必要不可欠であり、その基盤となる信頼関係の構築は何よりも重要である。</p> <p>そこで、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決のために以下のような具体的な対応をとるものとする。</p>	評価	次年度の主な課題
い じ め 撲 滅 に 係 る 取 り 組 み	1	<p>早期発見のために日頃の生徒観察や月一回のアンケート調査等の分析を十分に行い、気になる状況がある場合は速やかに職員の共通認識を図り、生徒への対応、保護者への説明や観察依頼を行う等、早期の対応・解決を図る。なお、新型コロナウイルス感染予防に伴う学校休業中においても、classi(クラッシー)等を利用してアンケートや生徒把握を徹底する。</p>		
	2	<p>定期的に生徒サポート委員会や担任会等を行い、生徒の動態とともに学習状況等を確認している。その際に、いじめに関する観察結果や今後心配される事柄などを職員で共有・検討し、生徒観察の強化や臨時的個人面談を実施するなどの方策をもっていじめ等の防止を心がける。</p>		
	3	<p>定期または臨時に個人面談を実施し、生徒の状況や意識、友人関係の変化等を聞き取り、いじめ防止に関する情報収集の一助とする。</p>		
	4	<p>各学期の終わりには保護者面談(年2回)を実施し、長期休暇中の生活について注意を促すとともに、いじめに関する保護者アンケートや家庭におけるいじめ発見のきっかけ(家庭用いじめチェックリスト)などを配布・説明し、気になることは学校(担任)に連絡していただくよう依頼する。家庭でのいじめ防止に関する意識の啓発と学校との素早い連携による早期発見、早期対応、早期解決を目指す。</p>		
	5	<p>教職員に対しては、年度の早い時期にいじめ撲滅のための研修会を計画的に行い、早期発見のための生徒観察のポイントや対応の仕方等を研修する。また、増加の一途をたどるネットによる誹謗中傷からいじめへ、更には自殺に発展した事例等を研究し、このような事態が発生しないための教育活動の在り方や発生した場合の対応等についても研修を行う。</p>		
	6	<p>授業や部活動等において生徒の気になる言動等があった場合は、活動を中断して生徒の言動について考えさせるなどの積極的な指導を行い、春日高校におけるいじめ撲滅についての姿勢を伝える。</p>		
	7	<p>いじめに対する教職員の姿勢としては被害者の立場・視点に立つことを大前提とし、いじめを絶対に許さないことをあらゆる活動を通して適宜生徒に伝える。</p>		
	8	<p>「学校いじめ防止基本方針」を研修会に活用し、共通認識を図った上で積極的な生徒観察や諸対応に努める。</p>		